

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第59回）議事要旨

1. 日 時 平成31年1月29日（火）10：45～12：50
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、大隅評議員、小川評議員、郷評議員、小間評議員、佐藤評議員
長谷川評議員、花輪評議員、松本評議員、村上評議員、徳田評議員
金子評議員、竹入評議員、山本評議員、井本評議員、室賀評議員
上野評議員、鍋倉評議員、岡本評議員
(陪席者)
二宮監事、竹俣監事、国立天文台 井口副台長
(事務担当者)
岡田総務課長、高田企画連携課長、鈴木財務課長、宮内施設企画室長、
国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 西山管理部長、岡崎統合
事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他
(研究成果発表者)
中山 潤一 教授（基礎生物学研究所）
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第58回）議事要旨（案）
 - 2 2019年度国立大学関係予算（案）の概要
 - 3 2019年度自然科学研究機構予算編成方針（案）
 - 4 自然科学研究機構における産学連携推進体制の整備について
 - 5 第4期中期目標期間における大学共同利用機関の在り方について（審議のま
とめ）
 - 6 I-URIC/4機構連携 男女共同参画講演会について
 - 7 第26回自然科学研究機構シンポジウムについて
5. 議事等
議事に先立ち、事務局から定足数の確認があった。
 - 1) 前回議事要旨（案）について
前回教育研究評議会（第58回）の議事要旨（案）（資料2）が了承された。
 - 2) 2019年度予算内示について
徳田評議員から、資料2に基づき、2019年度予算内示について報告があっ
た。

3) 2019年度自然科学研究機構予算編成方針について

徳田評議員から、資料3に基づき、2019年度自然科学研究機構予算編成方針について説明があり、審議の結果、案(資料3)のとおり了承された。

4) 産学連携体制について

金子評議員及び岡本研究総主幹から、資料4に基づき、産学連携体制について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 地方自治体との連携について、どのように考えているのか。
- 規則では官との連携にも対応しており、地方自治体との連携も検討していきたい。
- URAが産学連携を担当している大学が多いが、機構ではどのようになっているのか。
- 機構では、研究を支える学術URAを中心としてきたので、産学連携を担当しているURAは、現状ではない。今後は、産学連携室においてURAを中心に事業を進めていくことを予定しているので、人材の養成が重要であると考えている。
- 学術研究がメインの機構において、どのように産学連携に取り組んでいくのか。自分が研究しているサイエンスがどのような可能性を持っているのかを意識することは、国からサポートを受けている研究者として必要なことであり、このような可能性を取り込む仕組みが必要ではないか。

5) 第4期中期目標期間における大学共同利用機関の在り方について

徳田評議員から、資料5に基づき、第4期中期目標期間における大学共同利用機関の在り方について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 平成16年の法人化以来の大きな動きと感じている。研究環境基盤部会との意見交換はどのように行っているのか。
- 研究環境基盤部会では、初めは4機構を1法人にするという方向で議論が行われていたが、最終的に連合体ということになった。
- 大学共同利用機関は、大学と比べ何も改革していないという意見があったことが、連合体を形成する理由の一つでもある。研究面では、現在の体制を維持しながら、積極的に分野融合や大学院教育を進めていきたいと考えている。
- 総研大の創立以降、人事面や連携大学院などの制度が大きく変わってきている中で、別法人としてうまく運営していく必要があると考えている。今後、連合体でやるべきことをきちんと議論していかないと屋上屋を作るだけになってしまうので、そのようにならないように制度設計したいと考えている。
- ガバナンスは5つの法人がそれぞれ持っているおり、尊重して進めていくことになる。
- 連合体の設置に向けて、どのような体制を敷いているのか。

- 設立準備委員会を設けて、その下に4つのWGを設置したところであり、これから具体的な検討を進めていくこととしている。検討状況については、研究環境基盤部会に報告することとなっている。
- 総研大は人材育成が目的であり、4つの機構と目的が違うので、連合体に参加することに疑問を感じる。
- 連合体の設置については、前向きに捉えて付加価値を作っていきたいと考えている。
- 連合体は、4機構の上部にあるのではなく、並列するものであり、共通業務を行っていくものと考えている。例えば、情報セキュリティなどは、最近では非常に負担の大きい業務となっているが、4機構の中には国立情報学研究所があるため、うまく連携すれば共通化できるものと思っている。

6) I-URIC / 4機構連携 男女共同参画講演会について

山本評議員から、資料6に基づき、I-URIC / 4機構連携 男女共同参画講演会について報告があった。

7) 第26回自然科学研究機構シンポジウムについて

竹入評議員から、資料7に基づき、第26回自然科学研究機構シンポジウムについて報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 参加されている年齢層を見ると50代から60代が多い。今回、東京国際交流館で開催されているが、すぐ近くの日本科学未来館で開催した方が若い方の参加が増えるのではないか。
- 今後、検討したい。

8) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、基礎生物学研究所の中山潤一教授から「エピジェネティクスの基盤となるクロマチンの動的構造変換の研究」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上